座談会 思い出を語る

とき　12月27日
ところ　丸一

(第6回)

左から平野、田口、西在家、戸嶋、田中、小泉、沢田の各氏

出席者
教頭　戸嶋正夫
新八回生　田中義男
新八回生　田口節雄
新八回生　小泉務
新九回生　沢田重安
司会　西在家寛

司会　昭和三十年、野球部の甲子園出場は、母校五十年間の歴史の中では最大の花であったと思います。

二昔前のことで時間的には遠くなりましたが、紙吹雪やらパレードなど昨日のことのような気がします。今夕はあの時の感激をここに再現してほしい……。まず主将であった田中君からナインの紹介を……。

田中　投手村川、捕手田中、一塁名久井、二塁平野、三塁板垣、遊撃小泉、左翼佐々木、中堅田口、右翼沢野（現在沢田）、部長は戸嶋先生、監督が川村先生でした。

司会　今は県大会優勝すれば甲子園ゆきとなるが…。

戸嶋　あの頃は秋田、青森、岩手の三県の中から代表一校が出た。奥羽大会と称したが、これに出るまでが本大変、甲子園出場校は全国で二十三校、東北からは二校だけでした。

小泉　奥羽大会には何度か先輩達も出ましたね。

司会　小武方、円子時代ですか。

戸嶋　三度かな、小武方、遠藤らの時も青森までいったが果たせなかった。

司会　八戸高との決勝戦では自信がありましたか。

軟投村川 投打に活躍す

田中　誰といってとび抜けた選手がいるでもなし、みんなどんぐり、挙げれば村川ぐらいのものじゃなかったですか。だから優勝なんて……。

司会　村川は抜群でしたか。

田中　バッテングだったら抜群でしょうね。

戸嶋　いい時に打ったからな、投打に活躍した。

田中　決勝の時に活躍したのは小泉です。小泉が打って村川が還ってきましたから。あの時僕は全然…。

司会　村川は軟投でしたナ……。

戸嶋　ノラリクラリの投手と新聞にも出たもんだ。

小泉　球が沈んでいたから、打たれてもほとんどゴロになった。それに信じられぬほど併殺が多かったですね。スコアブックをみればセカンドの平野なんか少くて四回、多いときは六回もやっている。

司会　県予選では尻上りに好調だったようですね。

田口　一回戦の時、どうも自信がなかった、なにせ盛商との練習試合で大敗してたもんですから…。

沢田　寄宿舎で合宿し、市立高校で練習試合をやりましたね。石川さんなんかがコーチしてくれましたが、コールド敗けでしたね。

平野　だから下馬評も常に岩高不利と出ました。

戸嶋　地元紙の某記者だが、いつでも六分四分で劣勢、いくら勝ち進んでも敗ける予想だけだった。それで優勝した時、勝ったのはあんたのお蔭だと言ってやった。事実、練習試合でも分る通り強いなんてものじゃなかった。だが、だんだん調子が出て、試合がそのまま練習の積み重ねという結果になったナ、団結したしね。

司会　予想を裏切り勝ち進んだ原動力は？

田中　やっぱり甘やかされなかったということですね。非常にしいたげられたというか……グランドで野球の練習をするなというお達しでしたからね……。

司会　そうなんです。瓦

平野　そうでしたか。をこわすからと。もっともそれで先生方が帰るまで河村川なんか打つと瓦がとんで危険でもありましたが。北小学校でバント練習、テニスコートも借りました。

沢田　グランドではラグビー部、競技部ともかち合いました。河北小ではスパイクをはかないようにということでしたし……。

小泉　わりとエラーが少なかったのは、岩高グランドのお蔭だね。石ころでよくイレギュラーする。油断をすれば怪我だ。それが市営球場へゆくとイレギュラーなし、安心して守れた。

田口　悪条件だったが、それだけに本当に野球の好きな者だけが残った。一時はセカンドがいなくて中学の部員をつれてきてうめたこともある。

司会　決勝戦のスコアは？

沢田　5—3でした。

田中　ファーストがウイニングボールをキャッチした時、思わずメンコを投げたことをおぼえています。街をパレードした記憶がないですね。

司会　夢心地だったのかナ。エキサイトの場面などは？

田中　八戸高のピッチャーは西鉄にいった中島で、キャプテンでしたが、フックスライディング、足を上げてとび込んできて、とばされた。それで思わず頭をポカッとやってしまった。今ならあげられるかナ。

平野　勝ってグランドを一周した。浮き立つような気分と共に不安も湧いてきた。盛岡高が惨敗してきていたから、オラ一体なんじょになるべと沢田君と話したことをおぼえてます。

田中　オガショ（小笠原昭三）さんだと思うが、背後から、負けてもいいからと叫ばれた。オニと思っていた人のその声で、ずっと楽な気分になった。

沢田　球場から車で駅に向かい、それから材木町と盛んに太鼓を打ち、礼を言いながらの行進でした。

戸嶋　前日相談してはいたが、勝った時、あれだけ車が集っていた。驚いた。勝った時に動員かける手管にはしていた。

田口　トヨタの高橋功さんからも後で言われました。お前達が乗った車は俺が運転したと。

小泉　球場でオープンカーに乗る時、女の子から人形をさし出された、なじょにしようかと思っていたら、戸嶋先生が貰っておけというもんで……（笑）それだけははっきりおぼえています。

天から紙吹雪 市民の好意が身にしみる

戸嶋　在校生、父兄、卒業生が、あれ程一つになったことはない。先頭車には山中校長も乗り、生徒の自転車隊がナインに続いた。松屋、郵便局あたりにさしかかったら、天から紙吹雪、もう甲子園で勝ったみたいな湧きようだ。市民の好意が身にしみてジーンときた。

平野　大通り飯塚あたりでも大変な熱気でした。

田中　先生から挨拶の要領を言われたが、どうもウロおぼえでした。入院中の父に勝利を報告し、家に帰ったら近所の人達が祝勝会をやってくれました。嬉しかったですね。感激は家に帰っていよいよ深まった。

司会　あの長丁場、応援団もよくやりましたね。

田口　相手校はブラスバンドなんかで随分派手なのもありましたね。こちらでは、例の進軍ラッパ。意気あがりましたね。

戸嶋　あの時は多くの方から大変な恩義を受けた。審判の村松さんは手紙をよこしてくれた。それにはみんなの名前が書いてあり一人一人について感想が書かれていた。これはラジオの放送原稿で、録音もとった。余談だが、その録音テープは村松さんの葬儀の際、霊前にお供えしてきた。それから盛中OBの米内さん、一高応援団の先頭で棒を振るお爺さんだが真先きに来てお祝を述べてくれた。

夢の甲子園で 法政二高を降す

司会　では甲子園に話をすすめまして……法政二高の手応えはどうでした？

田口　東北勢はそれまでどちらかといえばコールドゲームみたいな敗け方をしてきている。だから全然見当がつかない。相手は神奈川代表の都会チーム、あの時も新聞は七分三分で岩高が負けると予想していた。

田中　相手のトップバッターはショートの吉沢、彼は主将でもあり、開会式では宣誓もした。その吉沢を村川が三振で討ちとった。それで法政二高に対する恐怖感は消えた。

沢田　試合となれば夢中になるから、勝敗のことはあまり考えない。しかし3—0で降した時は夢のような気分でした。

平野　まあ、どちらかといえば、あまり見苦しくなく終りたいなんてところだったと思う。

司会　坂出商の時はどうでしたか。

小泉　雰囲気が全然違う。あの時の新聞予想は五分五分と出た。坂出の投手の情報なども入り、新聞でも軟投投手とか書かれていたが、いざバッターボックスに立ってみると、今までみたこともない剛速球が飛んでくる。

田口　向うの軟投は、こちらにくれば速球投手、どうやら基準が違うらしい。

司会　準優勝した坂出商に3—1と迫ったのだから、悔はなかったですね。

田中　完敗ではありませんから……旅館の名前が三福だったので三回戦までゆくかと思ったのですが……。

司会　一矢は報いたからね、ところでファインプレー、珍プレーの思い出は？

小泉　ファインプレーは沢野ですね。

沢田　いや、あれは珍プレーです。

田中　あれはファインプレーと新聞に出ていた。

平野　僕が一塁の方に走ったのだ。ところがボールはアッチ。

沢田　なにせスタンドが白一色なもんですから、球がみえない、逆方向に走ったんです。

田口　あわや三塁打というところでしたが…。

司会　珍プレー変じてファインプレーとなる……それも練習の賜物ですね。

田口　坂出に敗けて戸嶋先生に謝ろうとしたら、先生はニコニコして、よかったよかったと言ってくれたんで、あの時だけは、先生喜んでくれてると思いましたね。（笑）

戸嶋　極限まで力を出すということだ。

応援も戦力をもり上げる一つだが、毎日新聞の上田常隆氏もよく三福旅館に来られた。三田商店の社員や三和銀行の社長もわざわざ訪ねてくれた。

田中　南海にいた円子先輩もきてくれました。郷土の応援隊は四五百人ぐらいだったと思います。写真をみると、ラサ工業の社長さんのハッピ姿もあります。

田口　マネジャーの小田島君よくやってくれた。

沢田　中川さん、瀬川さん、それに付添医の久保田先生には……

小泉　一生頭が上らないです。

司会　石桜新聞35号の座談会記事をみると、甲子園までの勝因として、戸嶋部長は次のように言っておられる。—平素の生活態度がよかった。それに①よく練習した②指導者の言葉をよく守った③チームワークは今までにないぐらいよかったと。よく練習したというその練習ぶりについて……。

田口　三百本ノック。腰が立たなくなりました。監督の川村先生は、最低の状態でどのくらいやれるか試されたといいます。我々は恵まれていました。

田中　高田松原で雨の日に練習がないなと思っていたら海岸の往復、砂の固いうちはいいが、サクサクの砂には足をとられる。チームワーク乱したから又いってこいなどとやられた。

小泉　暗いうちから川昌さんはノックをやっているんです。

平野　俺らは飯炊き、学校から鍋をもっていった。

小泉　好摩合宿もつらかった。暗いうちから川昌さんが、あれ程あれ程言ってるんです。

沢田　僕らも色紙を贈られました。打球フォームなどが画かれてます。

小泉　全国の高校生にくらべて非常に高校生らしいという評でしたが、あの位にしか出来なかったというのが本音ですね。

田中　授業料滞納の僕が卒業できたのは石桜会功労賞のお蔭です。今伜が甲子園の参加賞や功労賞を持ち出して帽子やバンドにつけたりして困ります。（笑）

戸嶋　功労賞を正選手九名に与えたが、団体での受賞は初めてのことだった。

司会　あの頃はよく選手の親御さんが球場にきましたね。

田中　病気で休んでいたら、練習はないのかと親父が自転車で球場に運んでくれたことがありました。

戸嶋　スポーツが強くなるには、親だよ。親が子供を頑張れと励ましてやることだ。ラグビーで黒工、秋工が強いのはそれだ。

司会　来年こそは甲子園へとゆきたいですね。ではこの辺で…。

司会　ところで校長室にある「花と少女」の油絵は甲子園のよい記念ですね。

戸嶋　あれは大宮市に住むフジバヤシ・サイカンという画家から贈られたものです。この画家は非常な高校野球ファンで甲子園は欠かさない。甲子園出場チームの中から最も気に入ったチーム二校をえらんで作品を贈ってくださいます。何度か手紙も交換しましたが、岩高のチームカラーに惚れこんで激賞してるんですよ。岩手高校には立派な品格があり、あれしたので動かされました。

チームの品位を 画伯が激賞

司会　勘定が合いませんナ。

田口　一人で二発頂戴した人もいるから……（笑）

戸嶋　恐らくそれはキャプテンでしょうナ（笑）